

C-15 中学生生徒の着衣状態について (第1報)  
神戸大教育 稲垣和子

目的 生活文化の向上にともない、衣生活も次第に変遷してきているが、このなかで、成長期における中学生生徒の着衣の実態を把握し、青少年期の健康増進に役立つ資料を得ることは非常に重要であると考へ、本調査を実施した。主として衛生学的な立場から検討を加え、若干の成績を得たので報告する。

方法 本調査は1978年の冬季、春季、夏季にわたり、阪神地区に居住する中学生136名(男子67名、女子69名)について実施した。調査内容の概要は、1)性、年齢、場所、体格、天候と寒暑感覚、冷暖房、衣服の種類などの一般的事項。2)上半身および下半身着用衣服の被服構成(元来の衣服科学の意味で)、その開閉度、そで丈、衣服丈、材質、衣服重量。3)くつ下、ベルトなどの類被服類。4)衣服総重量。とした。今回は全国的な調査を行なうにあつての予備的調査のため、出来るだけ個別的に調査表にもとづいて行ない、結果を集計し整理して、調査表の検討もあわせて行なつた。

結果 体表面積に対する衣服重量は、男女共、冬季と春季の差は春季と夏季の差よりも大きく、男子は女子よりも冬季と夏季の衣服重量の差がやや大で、冬季は夏季の約2.6倍、(女子は約2.2倍)である。これらの標準偏差は冬季、春季、夏季の順に、男子は141.21, 115.53, 60.28, 女子は同じく181.66, 81.07, 50.92, となつた。男女生徒の着用衣服の種類の一般的傾向の結果から、これらも検討し報告する。